

子ども向けプラネタリウム番組「もぐらくんとおつきさん」制作について

三浦飛未来*

Report on the production of the kids planetariumshow “Mole and the Moon”

Hibiki Miura*

はじめに

川崎市青少年科学館(以下、科学館)では、幼児から小学校低学年程度を対象とした子ども向け投影を行っており、土日祝日等の他、幼稚園、保育園等の学習投影としても実施している。1回の投影時間は35分間とし、その日の星空の生解説と科学館オリジナルのオート番組の組み合わせを基本としている。

オート番組は科学館で企画し、映像の制作、音響録音、プラネタリウムシステムへの装填等は業者に委託して制作している。

ここでは、2024年から公開している新番組「もぐらくんとおつきさん」制作の概要を報告する。

番組制作について

制作は担当者を中心に、テーマの選定からシナリオ作成までを行う。今回は小さな子どもでも馴染みがあり、見つけやすい天体をテーマとして季節を問わず上映できるものを意識し「月の満ち欠け」をテーマにすることにした。

シナリオ作成にあたってはセリフの他、簡易的な絵コンテを用意しながら制作会社と意見交換をしながら進めた。

シナリオ完成以降は制作会社により映像制作が進められ、当館ではパソコン上で全天映像を繰り返し確認した後、ドームでの最終確認をおこなった。

声の出演は制作会社から何人か候補を挙げていただき、イメージに合う声を科学館職員で検討して選定した。ナレーション録音においては科学館職員が立ち合い、確認しながら行った。

制作は概ね次のような工程で進められた。

2023年7～11月 企画・シナリオ作成
11～12月 映像制作
1月 録音
2月 映像確認

3月上旬 装填

3月14日 館内番組試写、納品検査

番組のあらまし

(1) 主な登場キャラクター

モール(こどもモグラ)、おつきさん、お母さん

(2) 概要

月の満ち欠けをテーマに、幼児から小学校低学年を主な対象にした内容になっている。主人公の子どものモグラが月と友達になり、月との交流の中で月の満ち欠けや、見える時間や位置の変化などを伝えている。

(3) 工夫した演出

今回の対象は比較的小さなお子様を対象に制作したため、見て感じてもらうことに重点をおいた。そのため、あえて満ち欠けの仕組みの解説などはいれていない。また、小さなお子様と一緒に見るおうちのかたも意識して、お母さんモグラもかつておつきさんと友達になっており、姿は変わっても思い出や繋がりといった変わらないものもあるというメッセージ性を込めたストーリー展開にしている。

番組制作にあたり、内容について委託業者である合同会社アルタイトルと協議を行い、月の満ち欠けによって見える星の数を調整したり、ドームを活かして穴の中から外へ出たりする演出などを工夫した。

(4) 内容

小さなこどもモグラのモールは、外の世界に興味津々。ある日お母さんに相談して夜の外へと出かけることになった。すると、空に明るく輝くおつきさんと出会い、友達になる。毎日のようにおつきさんとお話をするモールは、おつきさんの姿や位置の変化に気付いていく。しかし、ある日からおつ

*川崎市青少年科学館(かわさき宙と緑の科学館) Kawasaki Municipal Science Museum

きさんと会えなくなってしまった。そこでお母さんに相談すると、最初に会えた日から一か月くらいたつとまた会えると教えてもらう。その言葉通りにすると、モールはおつきさんと再会を果たすことができ、また二人の交流が始まるのだった。

原案：かわさき宙と緑の科学館
制作協力：合同会社アルタイル
声の出演：紙屋ありさ（モール）、高野直子（おつきさん）、中西裕美子（お母さん）、斉藤茂一（ナレーション）

まとめ

子どもといっても年齢に幅があり、幼児か小学生かによって反応が大きく異なる。また、年齢が低いほど集中力が長く持続しない傾向があるため、動きのある演出を多くし意図的に注目させるなど、対象を明確にした上での工夫を心掛けていきたい。

今後もオリジナルのこども番組を制作していくうえで、幼児や小学生の興味関心を引くこと、反応の傾向などを踏まえてシナリオ展開や演出を考えることが重要である。